

バレンタインに大きな愛を・・・

レクサスショールームにて、二人の現代美術作家 Yuko Takada Keller 氏と中島麦氏の作品を展示いたします。

Keller 氏の大きなハートの作品” All We need is LOVE” には、彼女の愛に対する大きな想いが込められています。それは、デンマークに暮らす Keller 氏自身が、外国人として異国で暮らすこと、そして母として子育てしながら感じること、未来の子供たちに美しい地球を残すことを表現した作品です。構成されるハートのピースには、Love Peace, Love Earth の文字が印字され、正面からは大きなハート、真横から見ると Globe—地球を象徴する球になるよう構成されています。

Keller 氏曰く、

— 私は外国人としてデンマークで暮らしていますが、日々、異文化摩擦や人種や宗教の違いから来る誤解や争い事も、目にすることも多く、平和な国に暮らしながらも、そうした事が世界中で起こっていることを敏感に感じています。—

日本人として、海外で暮らす中で、様々な文化の違いや誤解を Keller 氏自身が体験し感じていること、地球に暮らす全ての人が人を愛することができれば、解決していけることを日本にいる時より強く感じ、この作品が生み出されました。

小作品のクロスの意味は国旗のイメージです。人と人が CROSS、つまり交わり合うことを意味して、国を超えて人と交わり、愛すること、地球全体が一つになることをテーマとしています。

彼女の作品は全て小さなパーツで構成されていますが、そこには「ひとつひとつの欠片は小さくても、たくさん集まれば大きな力になる」という思いが込められています。

そんな彼女が作り出してきた世界を、DVD でご覧頂くことが出来ます。

中島麦氏の作品” 星々の悲しみ” — Blue on Blue — この作品は地球、広い意味での宇宙のイメージです。

「地球は青かった」と世界初の有人宇宙飛行士のユーリイ・ガガーリンの有名な言葉にあるように「地球は真に青く、宇宙は無限に蒼い。」その“あおいろ”が持つイメージ（「晴天・青い空」などのポジティブイメージ・「気分がブルーになる」のようなネガティブイメージ / 相反するイメージ）を表現しています。

しかしながら、私たちが目にする宇宙の青が、実際には異なった色を放っているのかもしれません。

中島氏曰く、

— 絵を描く事は、はっきりしているようでとてもあいまいな世界を手ざわりのある距離に実体化していく作業、記憶の記録です。— と言うように、彼自身が見えていても、実際には手が届かない空を眺め、上記の相反するイメージを（単色 / 複雑抽象）の2つで、表現しています。

温暖化や環境問題でどんどん変化していく地球の姿を私たち人間が存在する何万年も前から見守ってきた星々が、日々移り変わっていく様子に感じることを表現してると言ってもいいと思います。

この二人の作家の「地球」へのそれぞれの想いを表現した作品を、レクサスショールームにてバレンタインに愛する人を守る車、そしてその愛する人が安心して暮らしていけるような「地球への愛」に願いをこめて作品を展示いたします。

Coordinator 湯浅 央子

レクサスがハイブリッドで、できること。それはテクノロジーや快適性を追求しながらも、エレガンスと洗練さを持ち合わせ、次世代が安心して暮らしていける「地球」を守っていくことです。

そして、それはレクサスの課題として今後も取り組みたいと思っています。

レクサス住吉山手店